3　学力向上推進全体計画

・日本国憲法
・教育基本法
・沖縄県県教育主要施策
・学校教育における指導の努力点
・学力向上推進プランプロジェクトⅡ
・国頭教育事務所フロンティアプラン
・国頭村学校教育の施策

学校教育目標

◎明るく思いやりのある子
◎健康でたくましい子
◎よく考えがんばる子

・児童の実態
・学校の実態
・地域の願い
・保護者の願い

学力向上推進目標

子ども一人一人の学びを保障し、確かな学力の向上を図る

学力向上推進の視点

○「学びの共同体」の理念を軸とした授業改善に取り組む。(「聴き合う」の徹底)
○教師の指導力向上を目指して，互いに学び合う同僚性の構築や0JTによる授業公開等で指導の共有を図る
○児童の実態を把握し，児童個々の学びの保障を実践するための見通しを持った授業改善を行う。
○具体的な取り組みの内容や評価方法を明確にした学力向上の推進を図る。
○生徒指導の４つのポイントを生かした授業を日常化する。
○家庭学習の定着と基本的な生活習慣の確立を家庭と連携して行う。(「自学自習力」の育成)
○前年度の成果と課題を踏まえ，マネジメントサイクルに基づき，実効性のある取り組みを推進する。

取　組　事　項

①子どもが互いに学びあう授業	②教師も共に学びあう学校	③学力向上マネジメントの推進
＊安心して夢中になって学ぶ授業(聴き合うことを大きな軸とする) ・子どもの「問い」を引き出す課題の提示 ・子どもの「問い」を生かした「めあて」(目標)の設定 ・見通しをもち,めざすゴール(評価規準)をイメージさせる工夫 ・課題に向き合い考える時間の設定 ・比較，分類，類推など深い学びにつなげる発問の工夫（ジャンプの課題) ・他者との交流を通して，自分の考えを吟味するなど深い学びにつなげる場面の設定（ペア学習・グループ学習を基本とする) ・「めあて」と正対した「まとめ」や「振り返り」の実施 ・「わからない」「教えて」が言える ＊協同と探究がある授業 の実践を積み重ねる ＊ＩＣＴを活用した個別最適化された学びの実践 その他　漢字検定への取り組み (冬休みの課題として取り組みを開始)	＊教材研究の充実(時間の確保) ・積極的な授業公開 ・的確なアドバイス（授業研究会の充実) ・定着状況の的確な把握と必要に応じた手立てや単元計画の工夫 ・子どもの姿の見取り（評価）を生かした授業展開 ・子どもの困り感に寄り添う ＊言語能力の育成 〈授業を観る視点〉 １　子どもの事実から学ぶ ①誰一人孤立しない・排除されない ②つまずき・困り感・身体性 ③どんな学びが成立していたか，どんな学びの可能性があったか ２　教室の事実から学ぶ ①教科の本質に即した学びとデザイン ②教師の意図と子どもの思いの「ずれ」 ③「聴く－つなぐ－戻す」という技・教師の身体感覚 ④子どもへのケア（関係性) ⑤教師の変化 ３　授業者が観察してほしいと願うこと	・学力向上 5 カ年プランプロジェクトⅡ「3 つの視点」「５つの方策」の推進 ・ビジョンの構築・共有・浸透（目指す子供の姿・目指す授業像の共有) ・具体的な手立ての明確化 ・PDCA サイクルの円滑な推進（取り組みの進捗状況を定期的に点検し，課題については新たな改善策を講じる) ・管理職による日々の授業観察とフィードバック ・学校 OJT の実施 ・「キャリアサポート」を意識学年間の連携 ・「生徒指導年間サイクル」に基づいた学級経営の充実 ・「フォーカスシート」を活用した学力向上の推進・諸調査の実施・考察・分析 ・家庭学習の習慣化（家庭との連携) ・諸調査の実施・分析・考察 ・生活リズムの確立 ・読書活動の推進 (読書環境を整える→ 学級文庫の充実等)

④学びに向かう力の育成　（非認知能力の育成）のために

学習環境として下記のようなことをつくりだしていく
①児童が自分で選んで自分の意志でやっている実感を持つ
（話合い活動　係り活動　委員会活動等）
②児童の現在の能力をほんの少し超える課題を与える
（ジャンプ課題→協同と探究につながる）
③授業中の学習規律と支持的風土のある学校・学級経営を実践する
（安心・所属・承認・自立　４つのポイント）
④基本的な生活習慣の確立および家庭学習の習慣化と内容の充実を図る
（「自らの学びを自己調整しながら学ぶ力」を育てる）

学びに向かう力が育つ授業
対話的（仲間と共にやってみて，試してみて）
深い学び（その結果「ああそうか」とわかる）
主体的（だから，もっとやってみたいと思う）